

第一回平和展を企画した
石原照盛さん

当時、県内では平和展に取り組む自治体職員労働組合がいくつかありました。主催する人たちの交流を通して、自分自身も平和について考える機会が必要だと感じるようになったのです。

そこで邑楽町でも反核平和を訴えるイベントができないものかと考え、青年婦人部のみんなに企画を投げかけたところ、ぜひやろうということで準備から開催まで、全て手作りで行うことになりました。準備に時間がかかり、苦労したのを今でも覚えています。第一回目は、原爆について考える企画。広島・長崎・東京大空襲関連のパネル展示を行い、原爆瓦も借りてきて展示しました。

私たちの親の世代、つまり戦争を経験した語り部たちは、いつしかなくなっていくと思います。戦争を知らない子どもたちに、戦争とは何かと問われたとき、語り継がれていなければ、きつと私たちは答えることはできないでしょう。戦争の悲惨さを知ってもらい、平和の尊さを実感してもらうためにも、繰り返し訴えていく必要があるのです。

今ある平和は、多くの人の犠牲のもとに築かれたことを、忘れてはいけません

第一回目の平和展を企画した石原照盛さんにお話を伺いました。

インタビュー【語り継がれることに意味がある】

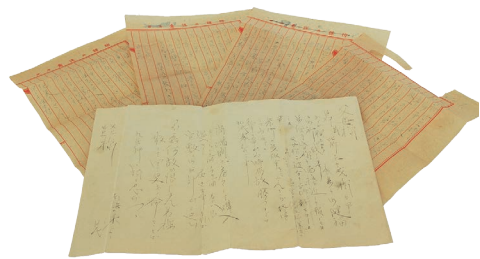
→第三回平和展では、実物大トマホーク巡航ミサイルの模型や、日本国憲法9条の大看板を手作りで作成しました



町内の読み聞かせボランティアグループによる、読み聞かせも行われています。皆さんの協力は、毎年大きな力になっています



「ちいちゃんのかげおくり」の大型絵本を手作りして展示。戦争の悲劇を、子どもたちに伝えていきたいと企画しました



戦地からの手紙

昨年は戦争体験者の皆さんの講演会も行われました。そのおひとりの森戸貢さん(坪谷・22区)には「戦地からの手紙」と題して、24歳の若さで東部ニューギニア戦線で戦死された叔父さんからの手紙にまつわるお話をしていただきました。大切な歴史の証言のひとつです



毎年、戦争にまつわるパネルなどを展示。立ち止まって見てもらえるよう工夫しています。「親子で一緒に見てもらい、戦争のことについて語り合うきっかけづくりにしてほしい」と実行委員の一人はいいます



すいとん

戦時中にも食べられていたという「すいとん」を再現、無料配布しました。試食したお年寄りは、「材料自体がよくなっているの、当時私が食べたものより、だいぶおいしいです」と話していました



毎年恒例の風船飛ばしでは、子どもたちの多くの笑顔に出会えます



←毎年、平和のメッセージの付いた色とりどりの風船を、来場者と一緒に飛ばします



↑黙とうをささげる若者たち。平和展実行委員会の若者たちが、企画から運営まで行う邑楽町平和展。準備に約3か月を費やし開催に臨みます

太平洋戦争が終結して68年。平和な時間が流れる日本。今どき「平和とは何か」問いかける人は、いないかもしれない…。しかし、ここ邑楽町では毎年、反戦や平和への想いを発信していく、「邑楽町平和展」というイベントが30年もの長きにわたり、若者たちの手により開催されています。始められたきっかけとは何だったのか。平和の尊さを訴え続ける意義とは。後輩たちへと受け継がれたものとは…。

特集

祈り語り継ぐ

尊いもの

戦争を知らない世代ができること

戦争を知らない子どもたちだから…

昭和20年8月15日の夏、ラジオから終戦を告げる天皇陛下の玉音放送が響きわたった。終戦から68年。今に生きる大多数の人は戦争を知らない世代。日本がアメリカを始めとした連合国と戦争をしていたことも、歴史の教科書で知るだけという人もいるかもしれません。そんな戦争を知らない世代の若者たちが、邑楽町平和展というイベントを毎年開催していま

後輩たちへと続くバトンリレー

平和展では、戦争についてのパネル展示を行い、町内の読み

す。企画から運営まで行うのは、町職員労働組合の青年婦人部(31歳以下)でつくる邑楽町平和展実行委員会の皆さんです。風化させてはならない過去の事実、知っておかなければならない戦争の悲劇を次の世代へと語り継ぐために、毎年創意工夫を凝らした平和展を行っているのです。

聞かせボランティアの皆さんも参加して、子どもたちに戦争の悲劇を伝える読み聞かせなども行っています。戦時中の食事も再現され、当時の食生活の貧しさも来場者に訴えています。昨年は、町内在住の戦争体験者の皆さんの講演も行われ、地域から平和への想いを発信していく試みも行われました。昭和57年に第一回目が開催され、今年で30年。節目を迎えるこの取り組みは、若者たちが次の後輩たちへと語り継ぐ、いわばバトンリレーといえます。



町の防災訓練では、県の防災ヘリコプター「はるな」による高層建物救出救助訓練も行われます

町の防災訓練

▼期日 9月1日⑤
▼時間 午前7時30分～11時
▼会場 青少年広場（町民体育館南）
▼訓練内容 避難訓練・高層建物救出救助訓練・水災防ぎょ活動訓練・建物火災消火訓練など
▼問合先 役場総務課 47-5002

防災行政無線の試験放送

災害時に国から全国瞬時警報システム（J-ALERT）で送信される緊急情報の伝達試験のため、町では防災行政無線による試験放送を行います。なお、本町以外の地域でも全国的に試験が行われます。

「特別警報」の運用を開始

気象庁では、今までの「警報」レベルをはるかに超える、より重大な災害の危険性が高まっている場合、新たに「特別警報」を発表します。

▼運用開始 8月30日⑤
※地震は、震度6弱以上の緊急地震速報を特別警報に位置づける予定です。

▼気象庁ホームページ
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/tokubetsu-keiho/index.html>

▼問合先 気象庁前橋地方気象台 027-1231-1404

●選挙区の得票数

候補者名	得票数
山本 一太 (自由民主党)	8,773
加賀谷 富士子 (民主党)	1,973
店橋 世津子 (日本共産党)	1,083
安永 陽 (幸福実現党)	283

●比例代表の得票数（政党のみ）

政党等の名称	得票数
自由民主党	4,180
日本維新の会	1,021
民主党	1,015
みんなの党	1,007
公明党	796
日本共産党	653
社会民主党	181
生活の党	144
みどりの風	49,318
幸福実現党	36
緑の党グリーン スジャパン	32
新党大地	24

選挙

7月21日、第23回参議院議員通常選挙が行われました。邑楽町の投票率は56・39%で、前回（平成22年）の選挙よりも4・46%減少しました。

なお、選挙区と比例代表の邑楽町で

の得票数は左表の通りです。掲載は得票順（敬称略）です。

▼問合先 町選挙管理委員会（役場総務課内） 47-5002 ※小数点以下は按分。

邑楽町の投票率は56・39%、前回より4・46%減少

参議院議員選挙の結果（邑楽町の得票数）

募集

お店の自慢の味をPRしませんか？

¥500グルメグランプリの参加店募集

町商工会では、「¥500グルメグランプリ」を開催します。グランプリに選ばれたメニューはお店のレギュラーメニューになり、投票していただいたお客様には、抽選で豪華賞品が当たります。

▼開催期間 10月1日⑤～11月30日⑤
▼参加費 0円
▼商工会員 2,000円
▼非商工会員 1万円
▼申込締切 8月20日⑤

▼申込・問合先 町商工会 88-0082



各店自慢の500円メニュー1品につき、1枚のシールを配布、お客様にはシールを3枚集めて「もう一度食べたいメニュー」に投票していただきます

防災

防災訓練や防災行政無線の試験放送を行います

万が一の災害に備えるために



防災行政無線



邑楽町平和展実行委員会 委員長 吉田一成さん

今年の平和展実行委員長を務める吉田さんにインタビュー

平和展は若者たちの視点で、さまざまなテーマを織り交ぜながら、毎年開催しています。原爆と人間展や沖縄戦の悲劇、群馬県の戦争の記憶など、太平洋戦争にまつわる悲劇を伝えてきました。戦時下の子どものスゴロを当てる、戦争の中の子どものたち、イラク戦争と子どもたちなども過去に取り上げました。

昨年は、町内在住の戦争を体験された皆さんの講演会も行い、大切な歴史の証言を聞くことができました。2011年の東日本大震災を受け、広く平和を願う意味から「復興支援とまちの防災」をテーマに平和展を開催したこともあります。今回も復興支援の一環で、福島県の特産品を販売する予定です。

年に一度の機会です。特に未来を担う子どもたちに、多数来場してほしいですね。解説などが難しい点もあると思いますが、親子一緒に来場していただき、戦争について語り合うきっかけづくりにしてほしいです。買い物帰りでよいので、ぜひ親子で平和展にご来場ください。

今後も、戦争を知らない世代が、語り継いでいかなければならない大切なことはあると考えます。なぜな



平和展実行委員 若旅佐矢子さん

届けたいたいメッセージ。
伝えたい思いがあります。

平和への願いを込めて、千羽鶴も折ります。来場した皆さんにも千羽鶴を折っていただくために、ブースも設けられています



ら、戦争を経験された皆さんが年々少なくなっているからです。当たり前前に今暮らしていることが、実は幸せなことなんだと気づかせてくれるのが、この平和展だと私は思うのです。



打ち合わせ会議を重ねる、実行委員のメンバー（写真はチャリティー部門の様子）

次の世代に語り継ぐ平和への礎のひとつにつながる取り組み

【取材を終えて】

石原さんは、「平和について繰り返し訴えていくことに意味がある」と言います。

吉田さんは次のように話します。「平和について考えてもらえるきっかけづくりのため、仲間と一緒に議論し、平和展をつくりあげることが未来につながる」と。

今回の取材を通して見えてきたものの、それは平和展を後輩たちへとバトンリレーしていくこと自体が、戦争の悲劇を語り継いでいくことにもつながるということでした。戦争の惨禍を二度と起こさないよう、次の世代に語り継ぐ平和への尊い礎のひとつなのではないでしょうか。



大空に願いを込めて